

令和5年度第2回秋田県立近代美術館協議会（要旨）

日 時： 令和5年12月8日（金） 13：30～15：00

会 場： 秋田県立近代美術館 研修室（6F）

出席者	会 長	木 村 司	横手市立横手南小学校長
	副会長	伊 藤 聖子	株式会社秋田ふるさと村営業部イベント企画広報課長
	委 員	荒 川 康一	株式会社秋田魁新報社文化部長
	〃	池 田 聖子	色々美術研究所代表
	〃	石 井 令人	日本放送協会秋田放送局長
	〃	鎌 田 あかね	Little A 代表
	〃	木 村 智子	横手市教育委員会生涯学習課長
	事務局	森 川 勝 栄	秋田県教育庁生涯学習課主任学芸主事
	〃	仲 町 啓子	秋田県立近代美術館 特任館長
	〃	佐 藤 哉子	〃 館 長
	〃	佐々木 和志	〃 総務班 副主幹(兼)班長
	〃	福 田 裕奈	〃 〃 主任
	〃	秩 父 大輝	〃 〃 主事
	〃	木 村 雅洋	〃 学芸班 学芸主事(兼)班長
	〃	鈴 木 秀一	〃 〃 副主幹
	〃	保 泉 充	〃 〃 主査(兼)学芸主事
	〃	藤 井 正輝	〃 〃 学芸主事
	〃	北 島 珠水	〃 〃 〃
	〃	秋 田 達也	〃 〃 主査(兼)学芸主事
	〃	鈴 木 京	〃 〃 〃

<次第>

1. 開会
2. 特任館長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 協議
  - (1) 令和5年度近代美術館事業の概況について
  - (2) 令和6年度近代美術館事業の概要について
  - (3) ミュージアム活性化事業3か年計画案について
  - (4) その他
5. 閉会

<協議概要>

(発言者：●委員 →事務局)

- アンケートの「今後見てみたい展示」について、それぞれ個性的で面白い。美術館としての位置付けに捉われず、個性的なテーマで来館者が要望する展示を企画することで来館者増に繋がるのではないかと。
- 鑑賞していただく客層によって異なる傾向の展示内容が要望されている。引き続き幅広い年齢層で興味を持っていただけるよう、来館者のご意見に留意し、先を見据えながら要望に沿った企画内容を調査し、今後の計画に反映していきたい。
- 「鑑賞中疲れた」「リラックスしたい」等のご意見で休憩スペースがほしいとあるが、改善策はどのように考えているか。
- 展覧会によって展示物が多いほど、鑑賞中休憩できるスペースがほしいとのご意見をいただく。展示内容に配慮した環境となるよう、展示室内のレイアウトも含め検討し対応していきたい。

- 縄文写真展について、他の展覧会と比べ入場者数が少ないと感じるが、その要因は何か。また、今回のテーマに関連して世界文化遺産「伊勢堂岱遺跡」のある県北地域と連携することで遠方からの来館も増加したのではないかな。

→ 「写真展」ということで、（実際は展示していたが）「実物が展示されていない」と思われて、それにより客足が遠のいたこともあるのではないかな。実物をより多く展示し注目を集めることで、写真に興味を持ってもらう方法もあったかもしれない。また、造形的な面白さや美的な魅力に目を向けていただこうと、考古学的な解説は少なくしたが、口頭による解説イベントを定期的に設けることで、入場者の関心をより高め、情報発信に繋げる方法もあった。  
県内の遺跡が世界文化遺産登録となったことで話題性はあったが、そのことを演出に生かし切れずに反省している。

- 入館者数について、目標値と実績値を比較すると大幅に乖離しているが、目標設定はどのように算出しているのか。

→ 県が掲げる「新秋田元気創造プラン」の重点戦略において、県立博物館施設の利用者数が指標の一つになっており、令和7年度まで、計画的に増やしていくことを目標としている。数字は、過去の実績や特別展の事業予算算出に用いた人数などを参考に算出している。

- 能代エナジウムパークで開催した出前美術展の入場者数が目標よりも上回っているが、その要因は何か。

→ 子供が楽しめる展覧会を目指し、木のおもちゃなどに子供が直接触れて感じられる企画を実施した。これにより、多くの方々の関心を集めたことが、入場者増につながったと考える。今後も多くの方々に楽しんでいただけるよう企画を工夫したい。

- 秋田市内で美術教室を開いており、秋田公立美術大学を志願する生徒も通っている。受験の参考にするために、歌川国芳展やコレクション展を鑑賞した生徒は、「教科書で見る版画と実物とは全然違う」「木版画以外にも様々な種類がある」と非常に勉強となった様子だった。また、将来学芸員を目指している生徒は、大根ビネーション展を鑑賞した際、「こういった展示の仕方があるのか」「自分ならこんな展示を企画したい」と生き生きとした様子で話しており、今後活躍する姿を想像すると楽しみである。

- 「入館者数」と「入場者数」の違いは何か。またどちらを重視しているのか。

→ 「入館者数」は館内に入館した人数である。「入場者数」は実際に展示室へ入場した人数であり、その内訳は、チケットを購入した有料入場者と、例えばセカンドスクールの利用などによる無料入場者である。当館としては、展示を楽しんでもらうことを目的としているため、「入場者数」を重視しているが、「入館者数」を増やすことで、より美術館に興味を持つ人が増え、「入場者数」の増加につながっていくものと考えている。

- 展覧会のタイトルについて、どのように決定しているのか。

→ 民間との共同による実行委員会、県及び関係者等からの意見を集約しながら、協議の上決定している。

●歌川国芳展では、複数のチラシを組み合わせ一つの絵になる、出口にフォトスポットを設置する等、様々な企画が工夫されており、とても楽しむことができた。企画している実行委員会側からの宣伝だけではなく、入場者からの情報発信により入場者がより増加するのではないかと。

→多くの方々が、本展の工夫を凝らした様々な企画について、SNSを通じて情報発信してくださり、大変好評だったと手応えを感じている。今後開催する展覧会においても、多くの方々に楽しんでもらえるような企画を工夫し、より入場者が増加するよう取り組んでいきたい。

●今年の夏は猛暑により、子供たちはプールで遊ぶことを中止していた。今後異常気象により、外遊びできない可能性も考えられるため、子供たちのためにも、整った施設で美術に触れる機会を考えた企画があればよいのではないかと。

→現在、仮想近代美術館「メタバース×キンビ」を構築中である。これにより、いつでも、どこにいてもメタバース上で当館の所蔵作品100点ほどを鑑賞できる他、例えば、メタバースの展示室で、当館学芸員と児童生徒・先生が交流しながら、活動もできる。運用開始は令和6年4月を予定しており、多くの学校で利用していただきたい。

●来年度30周年を迎えることとなるが、記念となる企画を検討しているのか。

→一つには、企業の協力を得ながら幅広い客層のニーズに対応した30周年にふさわしい特別展を開催することとしている。また、令和5年10月に県民投票により決定した、当館のめざす姿を象徴的に可視化した「公式ロゴマーク」や「メタバース×キンビ」の運用開始など、新たな魅力発信に取り組んでいく一年となる。

●「みんなのキンビ」プロジェクトについて、何か年計画となっているのか。

→博物館法改正により、美術館を中核に多様な主体が連携して、地域的・社会的課題に対応する他、全ての方が楽しめる美術館の在り方が求められている。本プロジェクトは、そうした取り組みの先駆けであり、まずは3か年で計画している。国の補助金等も活用しながら、機能強化を図っていく。